

IV 目標・取組及び評価指標等の設定と評価

福山市立 有 磨 小 学 校

年 目	中期経営目標	重 点	分 類	短期経営目標	目標達成に向けた取組	評価指標	中間評価（10月1日）			最終評価（2月末）					
							□指標に係る取組状況	プロセス評価	達成評価	改善方策	□指標に係る取組状況 ◎短期（中期）経営目標の達成状況	プロセス評価	達成評価	総合評価	改善方策
2	○全教室での「子ども主体の学び」の実現	★	継続	・「子どもの主体学びの実現」を意識した授業づくり・授業実践を通して、確かな学力の定着を図る。	・課題発見・解決学習の単元開発 ・適切な学習課題設定 ・「協同的な学びの場」の効果的な設定 ・児童の言葉や気づきでつなく授業づくり ・SDGs教育の推進	・全国学力・学習状況調査における「子ども主体の学びの実現」に関する質問項目8項目における肯定的回答80%以上 ・国・算・理テスト80点以上の児童80%以上	□「主体的・対話的で深い学び」に関する質問項目の肯定的回答97% □国・算・理テスト全校平均点88.9点 課題発見・解決学習の重点単元を設定し、県教委「学びのラボ」の研修等で学んだことを基に児童主体の学びについて意見交換をした。	4	4	・重点単元を核としてカリキュラムマップの関連性・系統性を見直す。 ・単元目標と評価との関連性を明確にし、校内研修の充実を図る。 ・ICTを効果的に活用し、基礎基本の徹底を図る。	□「子ども主体の学びの実現」に関する質問における肯定的回答92% □国・算・理の単元テスト80点以上の児童86% ◎研究授業において課題発見・解決学習の単元開発の具体を協議し、重点単元の成果交流において「子ども主体の学びの実現」のための系統的指導を話し合った。	4	4	4	・重点単元を要として、主体的な学びを実現するための単元づくりを行う。そのために教材研究を丁寧に行い、つきたい力を明確にする。 ・学級経営を見直し、児童が気づきを気軽に意見交換できる雰囲気醸成し、協同的な学びを推進する。
2	○教育活動全般を通じた児童の自己肯定感の高揚		継続	・自他のよいところを認め、優しく強く助け合う児童の育成を図る。	・道徳の授業の質の向上 ・教育相談体制の充実（組織的な生徒指導体制の確立） ・全教職員による児童一人一人の情報共有	・全国学力・学習状況調査における「自己肯定感」に係る質問項目11項目における肯定的回答85%以上 ・新規不登校児童0	□全国学力・学習状況調査における「自己肯定感」に係る質問項目11項目における肯定的回答96.8% スクールカウンセラーと連携し、保健室登校する日が増えた。研修等で教師一人一人が道徳の授業の質を高めよう意識することができた。	4	4	・保護者の不安の改善から児童の精神的安定を目指す。 ・道徳の授業力の向上に向けて引き続き研修等行う。	□児童アンケートで「自分にはよいところがある」に肯定的回答89.4% □保護者と連携を密に取り、3学期になって自ら教室に行ける日が増えた。 ◎日々の共感的な学級経営により、児童が素直に自分の考えや思いを伝えることができていく。	4	4	4	・児童が安心できる環境を作るとともに、日々の頑張りを認め保護者に伝えるなど引き続き取り組んでいく。 ・道徳等の中で、児童がお互いを尊重し合えるような指導になるよう研修を続けていく。
1	○児童の健やかな心と体の育成	★	新規	・自分の健康や体のことを意識して生活する児童の育成を図る。	・体を動かす運動や遊びの紹介、実施 ・体育の時間と家庭学習をつなげた運動の実施 ・日常的な学級指導に加え、時宜を得た養護教諭等による保健指導	・児童アンケートによる「体を動かすことが楽しい」と回答する児童80%以上 ・パワーアップ週間における目標学習時間達成率80%以上、メディア視聴時間1時間以内80%以上	□児童アンケートで「体を動かすことが楽しい」と回答する児童は97.9% 家庭でも「のびりっち」として取組をし効果があった。 □メディア視聴1時間以内29.8% 家庭への周知不足もあり、土日の視聴時間1時間以内とするのが難しかった。	3	3	・引き続き「わくわくタイム」や外遊びで楽しく体を動かせるよう取組む。 ・保護者にノーマディアの取組み協力をさらに呼びかけることにも、土日の時間設定の見直しをする。保健指導も継続する。	□児童アンケートで「体を動かすことが楽しい」児童は94.7% 児童会から寒い時期も外遊びをしようと呼びかけたことで、わずかな減少に留まった。 □メディア視聴1時間以内39.1% 家庭への周知をし協力も得られた。児童の実態から土日の視聴時間を3時間以内に変更したことにより、達成率が向上した。 □目標学習時間達成率62.8% 学習内容を自分で考えながら取組めた児童が増えた。	3	3	3	・学級遊びを増やし縦割り班遊び「わくわくタイム」を継続することで、楽しみながら体を動かせるよう取り組んでいく。 ・保護者に対して、ノーマディアの質を高める呼びかけを続けるとともに、メディア視聴に代わる家族の触れ合いを増やす過ごし方のアイデアを提供していく。
1	○安全で安心できる学校の実現		新規	・児童と保護者が安心、安全な学校生活を実感できる環境をつくる。	・保護者への丁寧な対応と連携 ・学校からの積極的な情報発信 ・地域人材等の積極的かつ効果的な活用 ・行事写真の校内掲示、HPの時宜を得た更新	・保護者アンケートによる学校教育に関する項目の肯定的評価90%以上 ・月2回以上のHPの更新	□保護者アンケートで「安心して学校に通わせている。」の肯定的評価98.9% 通信だけでなく、職員が丁寧な保護者対応を積み重ねてきた。 □月2回以上学校HP 古いものを刷新するとともに、学級ごとの活動のページを増やし情報発信した。	3	4	・今後も学校HP、学校だより、校内掲示を定期的に更新および発行しながら、積極的な情報発信を行う。また、保護者への早期、正確、丁寧な対応と連携を継続していく。	□保護者アンケートで「安心して学校に通わせている。」の肯定的評価96.8% 各職員が児童について、連絡帳や電話を通して保護者と綿密に連絡を行ってきた。 □学校HPの更新が月によって2回更新できない月があった。	3	3	3	・児童に関する事項の報告・連絡・相談を正確に行い、保護者対応を行う。 ・月1回、学校HPを更新するための作業時間を設定し、学級のページ更新を行う。
1	○自分の仕事に意義ややりがいを感じる働き方改革の推進		新規	・教職員の心と体の元気が児童の生き生きとした学びにつながるような学校運営を行う。	・定時退校日の徹底 ・入校・退校時刻記録の確実な入力と教職員への助言指導 ・校務分掌や行事、業務の精選	・時間外勤務月45時間以内の教職員の割合100% ・「仕事にやりがいを感じている。」と回答する教職員90%以上	□時間外勤務月45時間以内の割合が100% 各自が退校時刻を意識し、優先順位の業務遂行と協働作業が定着した。 □「仕事にやりがいを感じている」と回答した割合が100% 教材研究を含めた授業準備と児童指導の相談等の時間を確保した。	4	4	・水曜日の定時退校を徹底し、平時の退校時刻が18時30分までになるようお互いに声かけを行う。 ・行事や業務遂行時、いつも相談と協力ができる職員室の雰囲気ミドルリーダーを中心にする。	□時間外勤務月45時間以内の割合100% 個々が6時ごろ業務終了時刻を意識し、自然とお互いが声掛けをするようになった。 □「仕事にやりがいを感じている」と肯定的に回答した割合100% 主任・主事だけでなく、気づいた職員も率先して協同している。	4	4	4	・職員が児童と向き合う時間を十分確保するために、更なる学校行事の精選や日課の見直しを行う。

[プロセス評価の評価基準]

評点	評価基準
5	取組の目的に対する共通理解が顕著に認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が十分に図られた。
4	取組の目的に対する共通理解が認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が概ね図られた。
3	取組の目的に対する共通理解が一定程度認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決がある程度図られた。
2	取組の目的に対する共通理解が認められ難く、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決があまり図られなかった。
1	取組の目的に対する共通理解が認められず、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決が図られなかった。

[達成評価の評価基準]

評点	評価基準
5	目標を大幅に達成し、十分な成果をあげた。
4	目標を概ね達成し、望ましい成果をあげた。
3	目標をある程度達成し、一定の成果をあげた。
2	目標を下回り、成果よりも課題が多かった。
1	目標を大きく下回り、成果が認められなかった。

[総合評価の評価基準]

評点	評価基準	
5	100%以上の達成度	十分に目標を達成できた。
4	80%以上100%未満の達成度	概ね目標を達成できた。
3	60%以上80%未満の達成度	ある程度目標を達成できた。
2	40%以上60%未満の達成度	あまり目標を達成できなかった。
1	40%未満の達成度	目標を達成できなかった。